



「住んでみたい」「住んでよかった」「住み続けたい」まちの実現に向けて、音楽のもつ「優しさ」「強さ」「勇気」といった力をまちづくりに活かしていきたい…。

北斗市の「音楽のまち」を掲げた取組は、そんな願いから令和元年度よりスタートしました。

北斗市は総合文化センターかなでるを中心に、音楽活動に対する環境が整っています。小学校から一般まで、多くの市民が活躍する吹奏楽をはじめ、合唱やアンサンブル、民謡やカラオケまで、老若男女問わず、「誰もが簡単に音楽に取り組める」「いつでも音楽を楽しめる」まちです。

**ファミリークラシックコンサート**  
札幌交響楽団

7月26日(火)、北斗市総合文化センターかなでる大ホールで、クロネコファミリーコンサート「音楽宅急便」が北斗市で初めて開催されました。オーケ

ストラは札幌交響楽団、指揮は飯森範親さん、司会はアナウンサーの朝岡聡さんでした。当日は、市内の小中学生(吹奏楽部)も招待されました。

コンサートは、輝かしい金管楽器のファンファーレで幕を上げ、ナレーション付きの音楽物語「つるのおんがえし」や観客からのリクエストによるドヴォルザークの「交響曲9番新世界より」、観客が手拍子で音楽に参加する「マーチ」特集など、子どもから大人まで楽しめるコンサートで会場は大きな感動に包まれました。



札幌交響楽団による匠巻の演奏

音色に魅了された上機中学校吹奏楽部の生徒

**マタニティ&ファミリーコンサート**

8月20日(土)、北斗市総合文化センターかなでる大会議室で、妊婦さんや小さいお子さまのいる家族向けのファミリーコンサートが開催されました。音楽に合わせて歌ったり、踊ったりしながら

演奏者と子どもたちが一緒に楽しむことができる優しいクラシックコンサートでした。

会場には北斗市内、函館市、七飯町、森町、八雲町などから約100名が来場し、童謡「赤とんぼ」や「となりのトトロ」「サザエさん」「愛の挨拶」などの音楽を楽しみました。

演奏は、フルート・佐々木花菜さん、クラリネット・鳥潟さくらさん、ピアノ・蓑田なつきさん。道南を中心に活躍されている音楽家の奏でる美しい音色と素敵なアンサンブルに、会場からはたくさんの拍手が送られました。



3人の素敵な演奏

すーしーとのふれあい

**朗読とカンテレで親しむ**  
宮沢賢治の世界2022

8月21日(日)、北斗市総合文化センターかなでる小ホールで、北斗市立図書館の主催による「朗読とカンテレで親

しむ宮沢賢治の世界2022」が開催されました。岩手県盛岡市出身で元HBCアナウンサーの村井裕子さんの心のこもった朗読と、あらひろこさんの奏でる美しいカンテレの調べは、心に染み入るようでした。カンテレは、北欧フィンランドの伝統楽器で、木の胴に張った弦を、指でつま弾いて奏でる美しい響きの楽器です。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」や「永訣(えいけつ)の朝」、「虔十公園林(けんじゅうこうえんりん)」などの作品にカンテレの優しい音色はとてもよく合うものでした。

困難な状況の時にそっと寄り添ってくれる「雨ニモマケズ」。宮沢賢治が生きた百年前も激動の時代でした。たくさんの葛藤を抱えながら世界を俯瞰して生まれた数々の表現は、不安な今を生きる私たちの心にも勇気を与えてくれることでしょう。



朗読とカンテレの調和

カンテレの美しい音色

(学校教育課指導主事 中條 淳也)